

平成 28 年度

千葉県公立高等学校入学者選抜  
学 力 検 査 の 結 果

千葉県教育委員会

# 目 次

I	概 要	2
1	はじめに	
2	実施日, 教科	
3	調査の対象	
4	学力検査問題の特徴	
5	結果の概要	
II	【前期選抜】教科別の結果	
1	国 語	4
2	社 会	6
3	数 学	8
4	理 科	10
5	英 語	12
III	【前期選抜】受検者の得点分布	14
IV	【後期選抜】教科別の結果	
1	国 語	16
2	社 会	18
3	数 学	20
4	理 科	22
5	英 語	24
V	【後期選抜】受検者の得点分布	26

# I 概 要

## 1 はじめに

平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、前期選抜及び後期選抜において学力検査を実施した。その結果をもとに作成した「学力検査の結果」を、本県中学校及び高等学校において教科指導向上のための資料の一つとして活用願いたい。

## 2 実施日、教科

前期選抜の学力検査は、平成28年2月9日（火）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各50分、各100点満点で実施した。

後期選抜の学力検査は、平成28年2月29日（月）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各40分、各100点満点で実施した。

## 3 調査の対象

本結果は、平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜の前期選抜及び後期選抜の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール4校を除く）を受検した者（前期選抜では38,588名、後期選抜では16,559名）の結果についてまとめたものである。

なお、正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10%）によって算出した。

## 4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力がみられるよう配慮した。

平成28年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度がみられるよう、複数の解答について全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題や思考力、判断力、表現力を総合的にみることのできるような問題を設定した。

上記2点を柱に、「自ら学び、思考し、表現する力」をみる問題を充実させた。

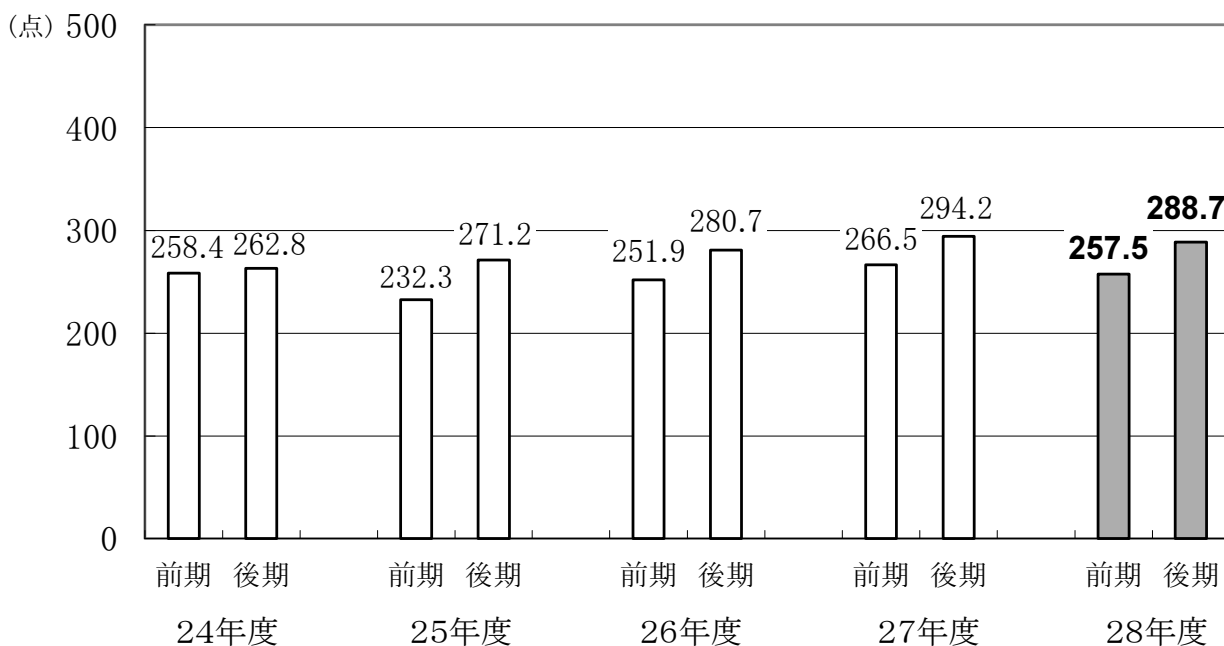
## 5 結果の概要

【表】各教科及び5教科の平均点

( )内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
平成 28 年度	前期	57.0 (16.0)	56.6 (22.1)	47.4 (18.2)	46.3 (19.6)	50.3 (25.1)	257.5 (89.5)
	後期	56.7 (16.4)	62.1 (22.1)	57.9 (15.1)	51.0 (18.7)	60.9 (22.7)	288.7 (83.8)
平成 27 年度	前期	48.5 (17.9)	58.1 (21.0)	46.9 (17.3)	57.1 (19.1)	55.9 (25.6)	266.5 (90.7)
	後期	55.9 (14.5)	64.2 (20.8)	57.1 (17.7)	62.4 (20.1)	54.5 (22.7)	294.2 (86.5)

【図】5教科の平均点の経年変化



前期・後期選抜の各教科及び5教科の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。平成28年度の前期選抜及び後期選抜の5教科の平均点を見ると、前期選抜は前年度よりも9点低くなり、後期選抜も前年度より6点程度低くなった。

なお、受検者の得点分布については、前期選抜は14、15ページ、後期選抜は26、27ページに示した。

## Ⅱ 【前期選抜】教科別の結果

### 1 国 語（前 期）

#### （1）出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，3領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 様々な文章について，内容を的確に理解し，書き手の伝えたいことなどを考察する力がみられるようにした。
- エ 与えられた材料について，自分の言葉で考えを適切にまとめたり，相手に的確に伝えたりする力がみられるようにした。

#### （2）正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,808

領 域（事 項）・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率の平均（％）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一	10点	78.1
書 く こ と	作文	八	12点	10.4
読 む こ と	説明的な文章	五	20点	51.1
	文学的な文章	六	20点	37.9
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	四（2） 七	14点	63.7
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四（1）（3）（4）	6点	74.0
	漢字に関する 事項	読み	二	8点
書き		三	10点	50.7

#### （3）結 果 の 説 明

全体の平均点は57.0点で，前年度と比べて8.5点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が88.5%と最も高く，次いで話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が78.1%であった。逆に，書くことの「作文」が10.4%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問二の「漢字（読み）」の（1）「支度」，同（4）「巡って」及び大問七の（1）「歴史的仮名遣い」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問六の（2）「文章の展開の理解と表現」，大問八の「資料をふまえての二段落構成の作文」及び大問五の（5）「文章の内容の理解と表現」であった。

無答率が高かったのは，大問三の「漢字（書き）」の（5）「試金石」，大問五の（5）「文章の内容の理解と表現」及び大問三の「漢字（書き）」の（1）「交う」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容			問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
				選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り	表現の技法(倒置法)	○			71.8	0.1		
	(2)		相づちの効果	○			79.2	0.1		
	(3)		内容の理解と要約	○			88.3	0.1		
	(4)	4点	「職場体験」インタビュー	内容の理解と適切な質問内容	○			72.9		
		2点 アのみ正答						4.8		
2点 オのみ正答		21.8								
無答								0.2		
二	(1)	漢字(読み)	支度[したく]		○		97.3	0.4		
	(2)		佳境[かきよう]		○		74.7	3.5		
	(3)		危(ぶまれる)[あや]		○		85.7	2.4		
	(4)		巡(って)[めぐ]		○		96.4	0.6		
三	(1)	漢字(書き)	交(う)		○		53.9	30.9		
	(2)		照(れて)		○		87.1	7.1		
	(3)		朗報		○		44.9	12.1		
	(4)		候補		○		56.6	18.6		
	(5)		試金石		○		11.0	43.8		
四	(1)	「定期演奏会のお知らせ」 下書き原稿	書写 漢字の行書の基礎的な書き方(筆順の変化)	○			56.1	0.4		
	(2)		漢文 書き下し文	○			83.7	0.2		
	(3)		文の成分の順序や照応, 文の構成	○			81.7	0.3		
	(4)		敬語(謙讓語)		○		84.4	4.9		
五	(1)	説明的な文章	文章の内容の理解	○			81.5	0.0		
	(2)		文章の展開の理解		○		13.8	24.2		
	(3)		文章の内容の理解	○			75.2	0.4		
	(4)		文章の内容の理解	○			60.9	0.7		
	(5)	4点	『新しいグローバルビジネスの教科書』	文章の内容の理解と表現 (10字以上, 20字以内)			○	10.8		
		1~3点						5.3		
(6)	無答						36.8			
(6)			文章の展開と内容の理解	○			64.5	0.9		
六	(1)	文学的な文章 『春や春』	季語		○		52.0	0.9		
	(2)		3点	文章の展開の理解と表現 (15字以上, 20字以内)			○	5.9		
			1~2点					13.9		
	(2)		無答						28.7	
	(3)			文章の内容の理解	○			51.2	1.0	
	(4)		I	登場人物の心情の理解と表現 (1語)				○	26.1	
			3点						9.9	
	II		3点	登場人物の心情の理解と表現 (10字以上, 13字以内)				○	11.4	
1~2点		12.3								
(4)	無答						6.4			
(5)		登場人物の心情の理解	○				59.2	3.4		
(6)		登場人物の心情の変化の理解	○				59.7	3.8		
七	(1)	古典 『十訓抄』	歴史的仮名遣い		○		93.7	2.7		
	(2)		文章の展開の理解	○			58.7	5.1		
	(3)		文章の展開の理解	○			63.0	3.3		
	(4)		文章の内容の理解	○			53.1	4.0		
	(5)		I	登場人物の人物像の理解と表現 (各4字)				○	2点	40.7
									1点	2.0
			無答							28.1
			II						2点	53.3
II	1点	1.7								
(5)	無答						27.3			
八	12点	条件作文 「ざっくりとした説明」 という言い方	資料をふまえての二段落構成の作文 (200字以内) ・前段部分は資料を根拠にした自分の考え ・後段部分は言葉の新しい使い方についての自分の考え			○	10.4			
	8~11点						24.5			
	4~7点						23.8			
	1~3点						9.2			
	無答							6.6		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

## 2 社 会 (前 期)

### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果が総合的にみられるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにするとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度がみられるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力がみられるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力がみられるようにした。

### (2) 正答率の概況

抽出答案数=3,807

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	<b>1</b> 12点	73.2	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	<b>2</b> 15点	58.5	60.2
	世 界 地 理	<b>3</b> 15点	61.9	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	<b>4</b> 16点	45.0	50.6
	近 ・ 現 代 史	<b>5</b> 15点	56.2	
公 民 的 分 野	日 本 の 政 治 制 度	<b>6</b> 11点	66.1	55.4
	国 民 生 活 と 経 済 ・ 社 会	<b>7</b> 10点	32.7	
	国 際 社 会	<b>8</b> 6点	68.2	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は56.6点で，前年度と比べて1.5点低くなった。

分野・内容別の正答率は，総合問題が73.2%で最も高く，次いで公民的分野の「国際社会」が68.2%と高かった。逆に，公民的分野の「国民生活と経済・社会」が32.7%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**8**の(2)「子ども(児童)の権利条約の内容」，大問**6**の(3)X「統一地方選挙における投票率の推移の資料の読み取り」及び大問**5**の(4)「第二次世界大戦中の日本の社会や人々の生活」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問**7**の(3)「公開市場操作」，大問**4**の(4)「日米修好通商条約締結後の日本と外国との貿易」及び大問**6**の(1)「衆議院議員選挙における比例代表制のしくみ」であった。

無答率が高かったのは，大問**8**の(1)「世界人権宣言」，大問**6**の(1)「衆議院議員選挙における比例代表制のしくみ」及び大問**4**の(5)「吉田松陰と安政の大獄」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	(1)	総合問題	畜産物の産出総額と内訳より道県を特定		○		74.7	0.1	
	(2)		江戸時代の将軍が行ったこと		○		52.9	0.0	
	(3)		牛乳に関するアンケート調査結果の資料の読み取り		○		83.6	0.0	
	(4)		商品の流通			○	81.7	5.3	
2	(1)	日本地理	各地方に属する都府県の数		○		54.6	0.2	
	(2)		平均気温と平均降水量より県庁所在地を特定		○		51.7	0.5	
	(3)		中京工業地帯，愛知県の製造品出荷額等割合		○	○	51.4	1.2	
	(4)		①	地形図の面積の読み取り		○		65.0	0.1
			②	地形図の方位や距離等の読み取り		○		69.9	0.2
3	(1)	世界地理	本初子午線が通る大陸名			○	61.4	3.8	
	(2)		イスラム教を信仰する人々の生活の様子		○		66.5	0.3	
	(3)		ロサンゼルスと日本との時差			○	44.2	4.9	
	(4)		モンスーン（季節風）			○	81.1	2.2	
	(5)		中国，アメリカ合衆国及びインドの農業と貿易に関する資料の読み取り		○		56.4	0.5	
4	(1)	前近代史	冠位十二階の制度				○	42.8	
								9.6	
									9.7
	(2)		法然		○		59.6	0.1	
	(3)		16世紀の世界のできごと		○		56.8	0.1	
	(4)		日米修好通商条約締結後の日本と外国との貿易		○		19.8	0.1	
(5)	吉田松陰と安政の大獄			○	45.8	19.3			
5	(1)	近・現代史	日本の不平等条約改正と陸奥宗光			○	42.3	14.7	
	(2)		義和団事件		○		50.3	0.1	
	(3)		国際連盟の本部が置かれた都市，新渡戸稲造		○		56.3	0.1	
	(4)		第二次世界大戦中の日本の社会や人々の生活		○		84.3	0.1	
	(5)		1945年から2001年までの間に起こった日本のできごと		○		47.7	0.1	
6	(1)	政治	衆議院議員選挙における比例代表制のしくみ				○	20.6	
								9.6	
									20.4
	(2)		与党と野党			○	74.4	5.4	
	(3)		X	統一地方選挙における投票率の推移の資料の読み取り		○		85.4	0.8
Y		地方自治は「民主主義の学校」		○		84.0	0.5		
7	(1)	経済	銀行が利益を得るしくみ				○	23.1	
								7.7	
									16.3
	(2)		景気が悪いときに行われる財政政策		○		59.6	0.4	
(3)	公開市場操作		○	○	15.3	3.7			
8	(1)	国際	世界人権宣言			○	47.6	22.3	
	(2)		子ども（児童）の権利条約の内容		○		88.9	0.9	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。



### 3 数 学 (前 期)

#### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、数学の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 多面的にもものを見ることや論理的に考えることの基となる、数学の理解力がみられるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力がみられるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力がみられるようにした。

#### (2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,808

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正 答 率 の 平 均 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1の(1)(2)(3)(4)(5)(6)	50点	62.5	
		2の(3), 5の(1)(2)(3)			
図 形	平 面 図 形	2の(5), 4の(2)	10点	2.6	40.7
	空 間 図 形	2の(1)	5点	66.3	
	命 題 の 証 明	4の(1)	10点	57.5	
関 数	関 数 $y = ax^2$	3の(1)(2)	15点	29.6	
資料の活用	資 料 の 活 用	2の(2)	5点	49.4	39.4
	確 率	2の(4)	5点	29.4	

#### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は47.4点で、前年度と比べて0.5点高くなった。

領域・内容別の正答率は、図形の「空間図形」が66.3%と最も高かった。逆に、図形の「平面図形」が2.6%と最も低かった。

また、次の表にあるように、「数と式」の領域では、大問1の(1)「正の数・負の数(除法)」の正答率が97.8%と最も高く、大問5の(3)「式の活用(数の規則性)」の正答率が3.0%と最も低かった。

「図形」の領域では、大問4の(1)(a)「図形の証明(穴埋め)」の正答率が83.1%と最も高く、大問4の(2)「平面図形(三平方の定理, 相似の利用)」の正答率が1.9%と最も低かった。

「関数」の領域では、大問3の(1)「一次関数(関数の決定)」の正答率が69.8%と最も高く、大問3の(2)②「関数 $y = ax^2$ (回転体の体積)」の正答率が1.0%と最も低かった。

「資料の活用」の領域では、大問2の(2)「資料の活用(相対度数)」の正答率が49.4%、大問2の(4)「確率」の正答率が29.4%であった。

無答率が高かったのは、大問3の(2)②「関数 $y = ax^2$ (回転体の体積)」, 大問4の(1)(c)「図形の証明(相似, 三角形の外角と内角の関係)」及び大問4の(2)「平面図形(三平方の定理, 相似の利用)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	正の数・負の数(除法)		○		97.8	0.1	
	(2)	正の数・負の数(四則計算:累乗を含む)		○		85.8	0.4	
	(3)	文字式の計算(分配法則)		○		52.4	1.7	
	(4)	一次方程式		○		74.4	3.0	
	(5)	平方根(根号を含む式の計算)		○		69.5	1.2	
	(6)	因数分解		○		82.1	3.0	
2	(1)	空間図形(球の体積・表面積)	○			66.3	0.2	
	(2)	資料の活用(相対度数)		○		49.4	6.6	
	(3)	連立方程式		○		62.4	13.2	
	(4)	確率		○		29.4	12.2	
	(5)	平面図形(作図)			○	3.3	33.3	
3	(1)	一次関数(関数の決定)		○		69.8	9.8	
	(2)	①	関数 $y = ax^2$ (方程式の解の決定)		○	18.1	33.2	
		②	関数 $y = ax^2$ (回転体の体積)		○	1.0	65.8	
4	(a)	(a)	図形の証明(穴埋め)	○		83.1	0.6	
		(b)	図形の証明(穴埋め)	○		81.3	0.7	
	(1)	6点	図形の証明(相似, 三角形の外角と内角の関係)				8.2	
		3点				○	2.9	
		無答						59.4
(2)	平面図形(三平方の定理, 相似の利用)		○		1.9	52.2		
5	(1)	式の活用(数の規則性)		○		89.0	2.3	
	(2)	(a)	式の活用(数の規則性)		○	57.5	10.6	
		(b)	式の活用(数の規則性)		○	13.0	15.7	
	(3)	式の活用(数の規則性)		○		3.0	42.4	

## 4 理 科 (前 期)

### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題した。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 科学的な見方や考え方を身に付けているかがみられるようにした。
- エ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果を表現する力がみられるようにした。
- オ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力がみられるようにした。

### (2) 正答率の概況

抽出答案数=3,807

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正答率の平均 (%)		
第 1 分 野	物 理	音源	1 (1) 3点	84.6	40.2
		電流と回路	3 10点	48.2	
		水圧，浮力と力のつりあい	6 12点	26.6	
	化 学	有機物	1 (2) 3点	46.0	39.2
		溶解度	4 10点	43.1	
		電池	9 12点	33.5	
第 2 分 野	生 物	シダ植物	1 (4) 3点	79.0	60.3
		呼吸	2 10点	50.3	
		無性生殖と遺伝	8 12点	65.6	
	地 学	オホーツク海気団	1 (3) 3点	45.7	53.3
		地層	5 10点	46.0	
		太陽の日周運動，年周運動	7 12点	60.6	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は46.3点で，前年度と比べて10.8点低くなった。

分野・内容別の正答率は，第2分野・生物の大問8「無性生殖と遺伝」が65.6%と最も高かった。逆に，第1分野・物理の大問6「水圧，浮力と力のつりあい」が26.6%と最も低かった。なお，大問1は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり，正答率の平均が63.8%であった。

また，次の表にあるように，正答率が高かった問題は，大問7の(1)(a)「南中高度」，大問8の(4)「種子の細胞の染色体」及び大問3の(2)「抵抗器Xの抵抗値」であった。逆に，正答率が低かった問題は，大問6の(3)「ばねばかりが糸を引く力の大きさ」，大問6の(2)「仕事の大きさ」及び大問2の(3)(b)「細胞の呼吸」であった。

無答率が高かった問題は，大問9の(3)「銅板の表面で起こる変化」，大問8の(1)「栄養生殖」及び大問2の(3)(b)「細胞の呼吸」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	音源	○			84.6	0.0	
	(2)	有機物	○			46.0	0.1	
	(3)	オホーツク海気団		○		45.7	2.8	
	(4)	シダ植物の特徴	○			79.0	0.1	
2	(1)	装置のゴム膜に対応する器官	○			71.4	0.0	
	(2)	肺が空気を出し入れするしくみ	○			56.1	0.1	
	(3)	(a)	組織液		○		63.3	4.6
		(b)	4点	細胞の呼吸			10.6	11.0
			1～3点				4.1	
無答								
3	(1)	回路の配線図			○	44.1	1.5	
	(2)	抵抗器Xの抵抗値		○		77.3	4.1	
	(3)	回路による電流の大きさの比較	○			23.1	0.5	
4	(1)	物質の溶解度		○		46.6	6.9	
	(2)	(a)	温度計の読み		○	50.4	1.8	
		(b)	溶解度の計算	○		59.4	1.1	
	(3)	質量パーセント濃度と溶解度の計算	○			16.2	2.1	
5	(1)	堆積岩		○		36.7	6.0	
	(2)	土砂を構成する粒	○			61.8	0.2	
	(3)	露頭のようなす	○			39.6	0.3	
6	(1)	重力, 浮力, ばねばかりが糸を引く力の関係	○			23.8	0.4	
	(2)	仕事	仕事大きさ		○	9.4	8.2	
		浮力の大きさ	深さの違いと浮力の大きさの関係	○		45.7	1.3	
	(3)	ばねばかりが糸を引く力の大きさ		○		7.5	8.9	
	(4)	ゴム膜のへこみ方の違いの根拠			○	46.4	5.5	
7	(1)	(a)	南中高度		○	94.6	2.3	
		(b)	南中高度が季節によって異なる理由	○		71.7	0.5	
	(2)	夏至の日の太陽の日周運動	○			65.1	0.2	
	(3)	4点	春分の日太陽の光の当たり方			10.9	4.8	
		1～3点				3.4		
無答								
8	(1)	栄養生殖		○		47.4	14.6	
	(2)	無性生殖の例	○			73.5	0.3	
	(3)	精細胞の染色体の数		○		64.0	1.8	
	(4)	種子の細胞の染色体	○			77.5	1.0	
9	(1)	電流の向きと化学電池の負極	○			49.7	0.3	
	(2)	塩酸中のイオンの変化	○			46.5	0.7	
	(3)	4点	銅板の表面で起こる変化			18.9	20.4	
		1～3点				1.9		
		無答						
(4)	備長炭電池の+極と-極	○			19.0	1.4		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

## 5 英 語 (前 期)

### (1) 出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識・技能を、全領域にわたり身に付けているかがみられるようにした。

イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などがみられるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力がみられるようにした。

ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力がみられるようにした。

エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力がみられるようにした。

### (2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,808

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率の平均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 6点	67.7	59.6
	リスニングテスト (絵を見て答える)	2 6点	66.9	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 9点	49.4	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 20点	48.0	49.7
	長い文章の読解	8 12点	28.3	
	対話文の流れの理解	9 12点	73.8	
書くこと (話すこと)	単語のつづり	4 12点	46.4	40.8
	文法及び文構造	5 15点	42.7	
	英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)	6 8点	9.1	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は50.3点で、前年度と比べて5.6点低くなった。

領域・内容別の正答率は、読むこと(話すこと)の「対話文の流れの理解」が73.8%と最も高かった。逆に、書くこと(話すこと)の「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」が9.1%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問7の(1)㉠「文脈に合わせて英語を選ぶ」、大問9の(1)「文脈に合わせて英語を選ぶ」及び大問4の(1)「blueのつづり」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問8の(2)「英語の質問に英語で答える」、大問6「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」及び大問7の(2)㉠「英語の質問に英語で答える」であった。

無答率が高かったのは、大問4の(3)「continueのつづり」、大問4の(4)「communicationのつづり」及び大問8の(2)「英語の質問に英語で答える」であった。

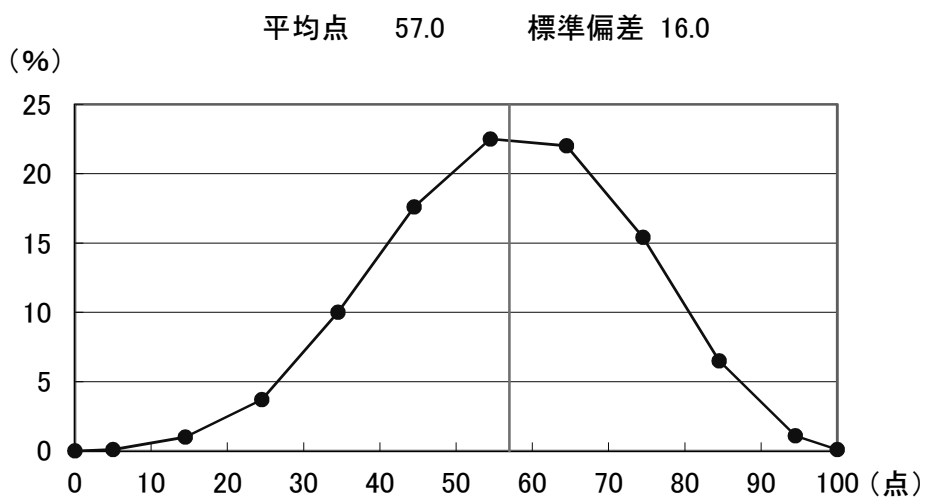
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	No.1	リスニング	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		74.5	0.0		
	No.2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		60.9	0.0		
2	No.1	リスニング	対話を聞いて絵を選ぶ	○		64.2	0.2		
	No.2		文章を聞いて絵を選ぶ	○		69.7	0.0		
3	No.1	リスニング	文章を聞いて英語を選ぶ	○		66.5	0.0		
	No.2		対話を聞いて英語を選ぶ	○		54.4	0.1		
	No.3		対話を聞いて英語を選ぶ	○		27.4	0.1		
4	(1)	単語つづり	blueのつづり		○	76.5	3.0		
	(2)		excitedのつづり		○	53.9	12.3		
	(3)		continueのつづり		○	24.9	48.9		
	(4)		communicationのつづり		○	30.4	46.1		
5	(1)	文法・文構造	形容詞 good を最上級 best にする		○	63.3	5.5		
	(2)		動詞 break を過去形 broke にする		○	33.9	4.0		
	(3)		語順整序 (I want to be like you in the future. )	○		51.1	0.3		
	(4)		語順整序 (The boy standing on your left is my brother, Jim. )	○		41.8	0.3		
	(5)		語順整序 (I believe the things he said will come true. )	○		23.5	0.9		
6	8点	自己表現	英語による自己表現(絵を見て状況を把握する) (解答例) I'm very busy now. Will you take a message and tell her I will call her back after cooking lunch?			9.1			
	5～7点					29.6			
	1～4点				○	31.2			
	無答						10.3		
7	(1)	短文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		80.2	0.1		
			文脈に合わせて英語を選ぶ	○		49.7	0.1		
	①		5点	英語の質問に英語で答える			○	15.7	
			3～4点				24.8		
			1～2点				7.5		
			無答					18.4	
	②		内容と合う日本語を選ぶ	○		56.1	0.1		
(3)	①	内容と合うよう英語を補充する		○	26.2	12.5			
	②	内容と合う英語を選ぶ	○		60.2	0.4			
8	(1)	長文読解	内容と合うよう英語を補充する		○	30.1			
				3点			1.4		
				無答				11.2	
	(2)		3点	英語の質問に英語で答える			○	7.2	
			1～2点				8.4		
			無答					34.2	
(3)	内容と合う英語を選ぶ	○		38.3	1.1				
(4)	内容と合う英語を選ぶ	○		37.5	1.9				
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		78.1	0.6		
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		71.6	0.7		
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		70.4	1.1		
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		75.3	1.4		

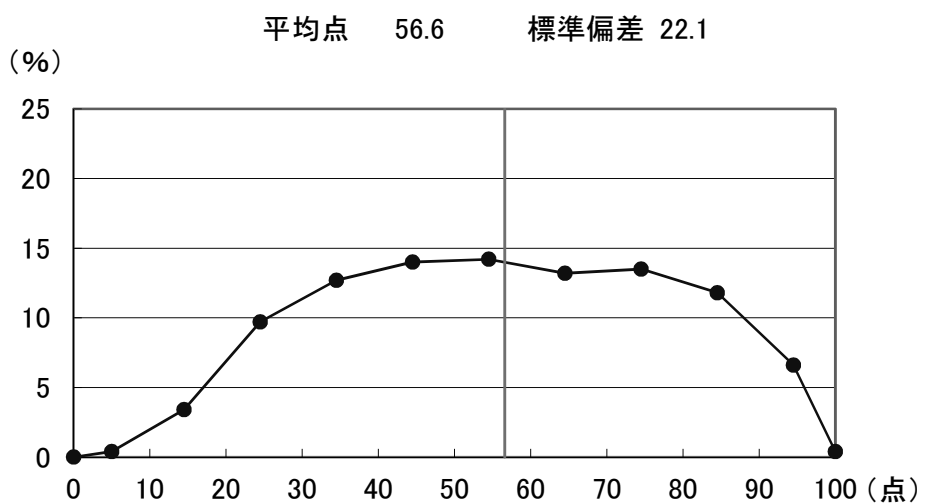
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

### Ⅲ 【前期選抜】受検者の得点分布

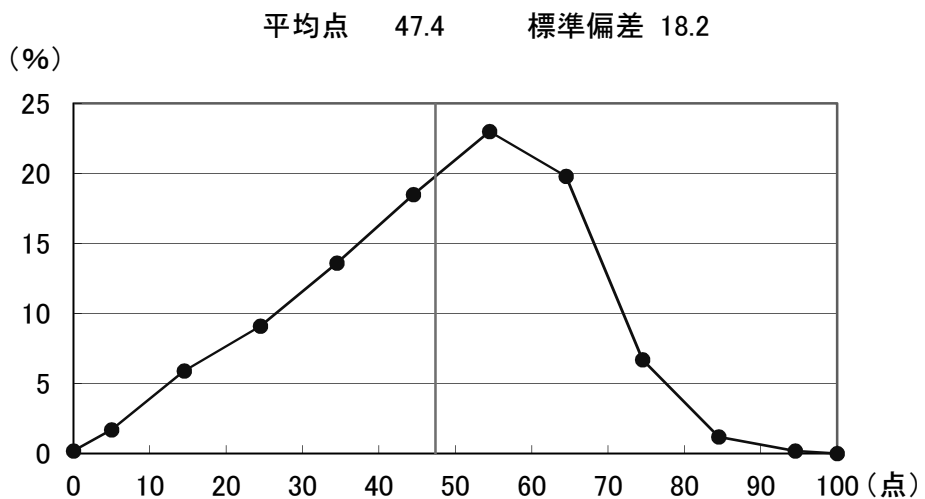
#### 1 国語



#### 2 社会

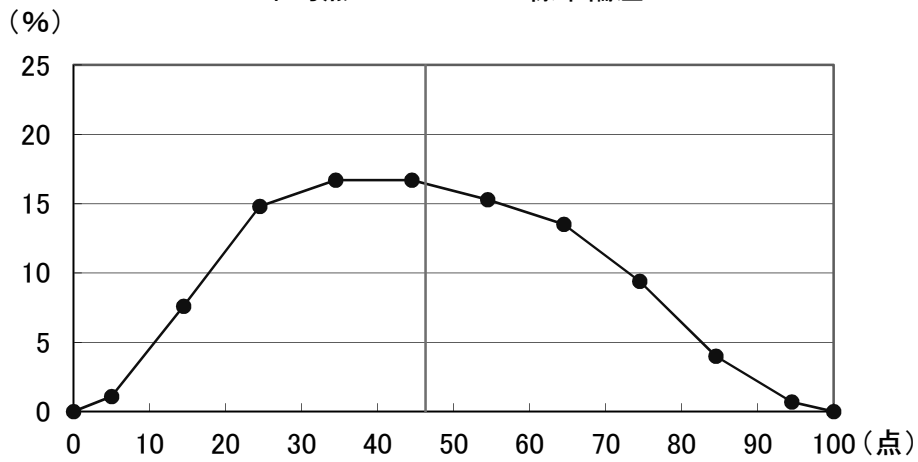


#### 3 数学



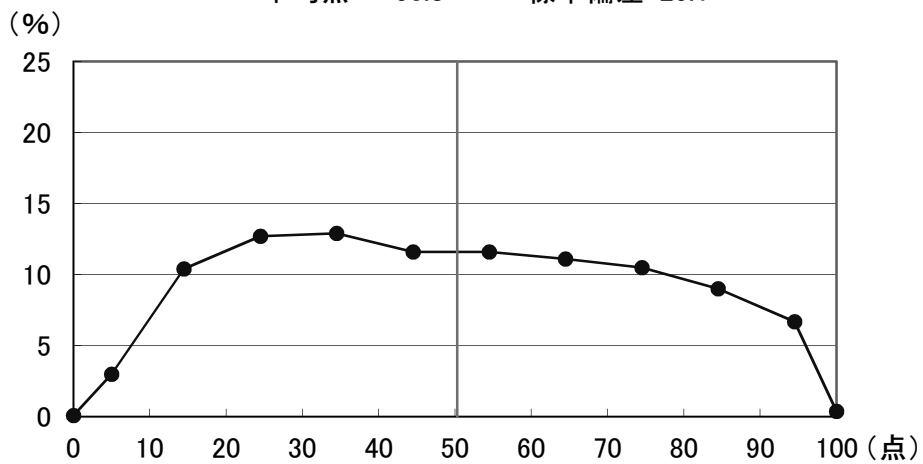
#### 4 理科

平均点 46.3 標準偏差 19.6



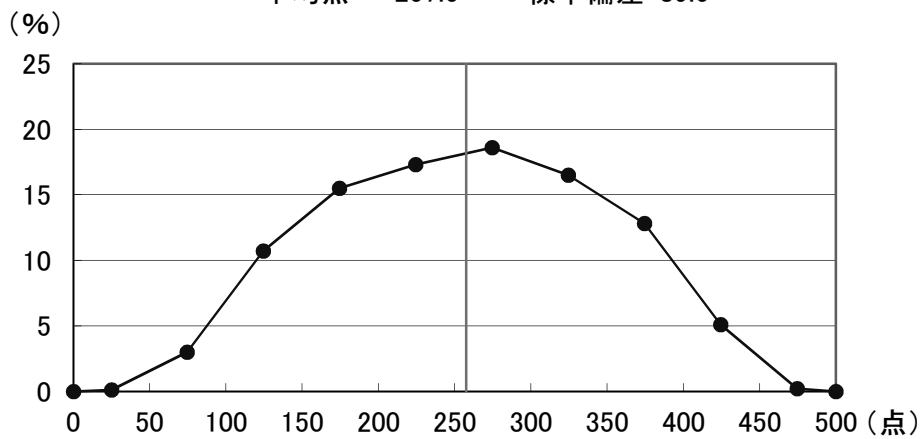
#### 5 英語

平均点 50.3 標準偏差 25.1



#### 6 5教科得点合計

平均点 257.5 標準偏差 89.5





## IV 【後期選抜】教科別の結果

### 1 国 語（後 期）

#### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，3領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 様々な文章について，内容を的確に理解し，書き手の伝えたいことなどを考察する力がみられるようにした。
- エ 与えられた材料について，自分の言葉で考えを適切にまとめたり，相手に的確に伝えたりする力がみられるようにした。

#### (2) 正答率の概況

抽出答案数=1,636

領 域（事 項）・ 内 容		問 題・配 点		正答率の平均（%）	
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一	12点	67.1	
書 く こ と	作文	七	10点	15.6	
読 む こ と	説明的な文章	五（1）～（3） 五（5）（6）	19点	53.8	
	文学的な文章	四（2）～（6）	21点	66.3	
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	六	13点	50.6	
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四（1） 五（4）	7点	55.7	
	漢字に関する 事項	読み	二	8点	70.0
		書き	三	10点	54.0

#### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は56.7点で，前年度と比べて0.8点高くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が70.0%と最も高く，次いで話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が67.1%であった。逆に，書くことの「作文」が15.6%と最も低かった。

また，次の表にあるように正答率が高かったのは，大問**五（4）D**の「文章の構成や展開」，大問**三**「漢字（書き）」の（1）「夢」及び大問**二**「漢字（読み）」の（1）「仰ぐ」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問**六（3）②**の「文章の内容の理解」，大問**五（6）**の「文章の内容の理解と表現」及び大問**七**の「資料をふまえての一段落構成の作文」であった。

無答率が高かったのは，大問**六（3）②**の「文章の内容の理解」，大問**五（6）**の「文章の内容の理解と表現」及び大問**四（5）I**の「登場人物の心情の理解と表現」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り	話の聞き方と助言の仕方の理解	○		90.3	0.1		
	(2)		表現の工夫(比喩・話し方)	○		82.9	0.2		
	(3)	「部活動紹介」部長と顧問とのやりとりとお昼の放送	話し言葉と書き言葉	○	○	27.9	/		
			聞き手を意識した話し手の配慮			47.1			
			5.0						
無答				3.3					
二	(1)	漢字(読み)	仰(ぐ)[あお]		○	95.4	1.4		
	(2)		赴(く)[おもむ]		○	65.6	0.8		
	(3)		吟味[ぎんみ]		○	84.4	3.2		
	(4)		掘削[くっさく]		○	34.8	11.1		
三	(1)	漢字(書き)	夢		○	95.8	0.6		
	(2)		織(りなす)		○	44.0	16.3		
	(3)		除去		○	40.3	15.7		
	(4)		祝辞		○	48.2	13.4		
	(5)		心機一転		○	41.7	8.6		
四	(1)	文学的な文章 『ココロ・ファインダ』	品詞の識別(助詞/助動詞)	○		27.8	0.7		
	(2)		文章の展開の理解		○	39.1	3.1		
	(3)		登場人物の心情の理解	○		86.9	0.7		
	(4)		文章の内容の理解	○		78.3	0.4		
	(5)		I	登場人物の心情の理解と表現(10字以上, 15字以内)			○	33.1	/
			1~4点	13.0					
	無答						23.1		
II	登場人物の心情の理解と表現	○		76.8	3.8				
(6)	登場人物の心情の変化の理解	○		83.4	0.4				
五	(1)	説明的な文章 『アサーションの心 自分も相手も大切に するコミュニケーション』	文章の展開の理解		○	87.5	2.6		
	(2)		文章の内容の理解	○		58.7	0.4		
	(3)		文章の内容の理解	○		67.7	1.3		
	(4)		D	文章の構成や展開	○		96.6	0.9	
			F	42.7	1.4				
	(5)		文章の内容の理解と具体例	○		44.6	2.7		
	(6)		6点	文章の内容の理解と表現(25字以上, 35字以内)			○	10.5	/
1~5点		12.8							
無答		31.8							
六	(1)	古典 『雑談集』	歴史的仮名遣い		○	93.9	2.2		
	(2)		文章の展開の理解		○	30.5	7.6		
	(3)		①	文章の内容の理解	○		62.0	7.3	
			3点	文章の内容の理解(7字以上, 12字以内)			5.2	/	
							2.0		
②	1~2点	無答			34.0				
(4)	IとIIの文章に共通した内容の理解	○		61.5	6.6				
七	10点	条件作文 「プレゼンテーション」 目的を示すページの 挿入先についての説明	資料をふまえての一段落構成の作文(140字以内) ・目的を示すページの挿入先について、そのように考える理由を、資料の言葉を引用して説明する。			○	15.6	/	
	6~9点						29.8		
	1~5点						15.3		
	無答						8.4		

## 2 社 会 (後 期)

### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し，学習の成果が総合的にみられるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにするとともに，現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度がみられるようにした。
- ウ 統計や地形図，写真などの諸資料を活用して，社会的事象を判断・分析する力，そしてそれを表現する力がみられるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力がみられるようにした。

### (2) 正答率の概況

抽出答案数=1,636

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正答率の平均 (%)	
総 合	総 合 問 題	<b>1</b> 10点	66.2	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	<b>2</b> 16点	59.6	60.4
	世 界 地 理	<b>3</b> 15点	61.4	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	<b>4</b> 19点	54.4	59.1
	近 ・ 現 代 史	<b>5</b> 16点	64.8	
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	<b>6</b> 12点	72.8	65.3
	日本の政治制度	<b>7</b> 12点	57.7	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は62.1点で，前年度と比べて2.1点低くなった。

分野・内容別の正答率は，公民的分野の「国民生活と経済・社会」が72.8%で最も高く，次いで総合問題が66.2%と高かった。逆に，歴史的分野の「前近代史」が54.4%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かったのは，大問**1**の(3)「県内の有名な樹木に関する歴史上の人物」，大問**7**の(3)「身体的自由と刑事裁判」及び大問**6**の(3)「介護保険制度に関する資料の読み取り」であった。逆に，正答率が低かったのは，大問**7**の(1)「違憲審査権(違憲立法審査権)」，大問**4**の(2)「藤原道長が政治の実権を握るためにとった方法」及び大問**4**の(4)「長篠の戦い以降の文化について」であった。

無答率が高かったのは，大問**7**の(1)「違憲審査権(違憲立法審査権)」，大問**6**の(1)「独占禁止法と公正取引委員会」及び大問**2**の(1)「県庁所在地名と県名が異なる県」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	総合問題	花きの産出（出荷）額，総面積，昼夜間人口比率及び野菜の出荷量より県を特定	○		51.2	0.1	
	(2)		為替相場（レート）		○	63.4	6.0	
	(3)		県内の有名な樹木に関する歴史上の人物	○		84.1	0.0	
2	(1)	日本地理	県庁所在地名と県名が異なる県		○	47.1	11.1	
	(2)		C	米の収穫量(2013年)の全国上位5位までの道県に関する資料についての生徒の会話より道県を特定	○		56.6	0.6
			D		○		57.9	0.5
	(3)		火力発電		○	61.9	1.3	
(4)	異なる年代の地形図を比較した地図記号の読み取り	○		74.4	0.4			
3	(1)	世界地理	六つの州に属する主な国		○	71.9	1.2	
	(2)		本初子午線と180度の経線	○		47.3	0.1	
	(3)		月平均気温と月降水量より都市を特定	○		64.6	0.1	
	(4)		南米4か国の貿易に関する資料の読み取り	○		61.7	0.4	
4	(1)	前近代史	壬申の乱	○		77.1	0.1	
	(2)		4点	藤原道長が政治の実権を握るためにとった方法			30.1	
			1~3点			○	20.0	
			無答					6.8
	(3)		城下町		○	73.3	8.3	
	(4)		長篠の戦い以降の文化について	○		35.5	0.1	
(5)	アヘン戦争	○		56.1	0.3			
5	(1)	近・現代史	学制		○	78.2	6.1	
	(2)		黒田清輝	○		56.2	0.1	
	(3)		大戦景気	○		66.8	0.1	
	(4)		1935年から1978年の間に起こった世界のできごと	○		58.1	0.2	
6	(1)	経済	独占禁止法と公正取引委員会		○	73.0	11.2	
	(2)		日本の社会保障制度の四つの柱	○		65.8	0.3	
	(3)		介護保険制度に関する資料の読み取り	○		79.5	0.6	
7	(1)	政治	違憲審査権（違憲立法審査権）			20.9		
				1~3点		○	7.0	
				無答				14.9
	(2)	国務大臣		○	71.3	5.2		
(3)	身体的自由と刑事裁判	○		81.0	0.4			

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

### 3 数 学 (後 期)

#### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，数学の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- イ 多面的にもものを見ることや論理的に考えることの基となる，数学の理解力がみられるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力がみられるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力がみられるようにした。

#### (2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,636

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 の 平 均 ( % )	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	<b>1</b> の (1) (2) (3) (4) (5) (6) 4 1 点	7 4 . 6	
		<b>5</b> の (1) (2) (3)		
図 形	平 面 図 形	<b>2</b> の (5), <b>4</b> の (2) 1 1 点	1 4 . 5	5 1 . 9
	空 間 図 形	<b>2</b> の (1) 6 点	9 3 . 0	
	命 題 の 証 明	<b>4</b> の (1) 1 0 点	6 3 . 1	
関 数	一 次 関 数	<b>3</b> の (2) 6 点	2 3 . 0	3 0 . 3
	関 数 $y = ax^2$	<b>2</b> の (3), <b>3</b> の (1), <b>5</b> の (4) 1 4 点	3 5 . 2	
資料の活用	資 料 の 活 用	<b>2</b> の (2) 6 点	6 9 . 0	7 2 . 2
	確 率	<b>2</b> の (4) 6 点	7 5 . 3	

#### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は57.9点で，前年度と比べて0.8点高くなった。

領域・内容別の正答率は，図形の「空間図形」が93.0%と最も高く，図形の「平面図形」が14.5%と最も低かった。

また，次の表にあるように，「数と式」の領域では，大問**1**の(1)「正の数・負の数(減法)」の正答率が99.0%と最も高く，大問**5**の(3)「式の活用(数の規則性)」の正答率が12.2%と最も低かった。

「図形」の領域では，大問**2**の(1)「空間図形(投影図)」の正答率が93.0%と最も高く，大問**4**の(2)「平面図形(相似の応用)」の正答率が1.8%と最も低かった。

「関数」の領域では，大問**2**の(3)「関数 $y = ax^2$ (関数の決定)」の正答率が54.6%と最も高く，大問**5**の(4)「式の活用(数の規則性)」の正答率が1.1%と最も低かった。

「資料の活用」の領域では，大問**2**の(4)「確率」の正答率が75.3%，大問**2**の(2)「資料の活用」の正答率が69.0%であった。

無答率が高かったのは，大問**5**の(4)「式の活用(数の規則性)」，大問**4**の(1)(c)「図形の証明(三角形の相似)」及び大問**3**の(2)②「一次関数・関数 $y = ax^2$ (方程式の解)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
1	(1)	正の数・負の数(減法)		○		99.0	0.1	
	(2)	正の数・負の数(四則計算:累乗を含む)		○		97.2	0.3	
	(3)	文字式の計算(分配法則)		○		85.1	1.2	
	(4)	連立方程式		○		90.2	1.7	
	(5)	平方根(根号を含む式の計算)		○		85.1	1.9	
	(6)	二次方程式(二次方程式の解の公式)		○		81.8	3.6	
2	(1)	空間図形(投影図)	○			93.0	0.1	
	(2)	資料の活用(平均値)		○		69.0	2.6	
	(3)	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○		54.6	14.2	
	(4)	確率		○		75.3	5.8	
	(5)	平面図形(作図)			○	27.2	40.8	
3	(1)	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○		49.9	16.3	
	(2)	①	一次関数・関数 $y = ax^2$ (面積)		○		41.1	24.6
		②	一次関数・関数 $y = ax^2$ (方程式の解)		○		4.9	44.5
4	(a)	(a)	図形の証明(穴埋め)	○			95.7	0.5
		(b)	図形の証明(穴埋め)	○			90.2	0.6
	(c)	6点	図形の証明(三角形の相似)				3.4	/
		3点					2.8	
		無答						
(2)	平面図形(相似の応用)		○			1.8	37.6	
5	(1)	式の活用(数の規則性)		○		78.1	5.2	
	(2)	式の活用(数の規則性)		○		43.0	8.9	
	(3)	式の活用(数の規則性)		○		12.2	40.3	
	(4)	式の活用(数の規則性)		○		1.1	60.9	

## 4 理 科 (後 期)

### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき，第1分野，第2分野からバランスよく出題した。
- イ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けているかがみられるようにした。
- ウ 科学的な見方や考え方を身に付けているかがみられるようにした。
- エ 図や表を基に，科学的に判断する力や結果を表現する力がみられるようにした。
- オ 課題を多面的，総合的にとらえ，科学的に思考し，解決する力がみられるようにした。

### (2) 正答率の概況

抽出答案数=1,636

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率の平均 (%)			
第1分野	物 理	物体の運動	4	13点	30.3	37.8
		電流と磁界	6	12点	45.3	
	化 学	化学反応と気体の発生	1	12点	64.8	55.6
		酸化と物質の質量変化	7	13点	46.4	
第2分野	生 物	無脊椎動物	3	12点	65.5	58.4
		植物のつくりと光合成	8	13点	49.6	
	地 学	台風の通過と気象の変化	2	12点	65.7	59.7
		月食と月の満ち欠け	5	13点	53.7	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は51.0点で，前年度と比べて11.4点低くなった。

分野・内容別の正答率は，第2分野・地学の大問**2**「台風の通過と気象の変化」が65.7%と最も高かった。逆に，第1分野・物理の大問**4**「物体の運動」が30.3%と最も低かった。

また，次の表にあるように，正答率が高かった問題は，大問**2**の(3)**B**「台風の経路と気象の変化」，大問**2**の(1)「積乱雲」及び大問**1**の(2)①「二酸化炭素の化学式」であった。逆に，正答率が低かった問題は，大問**8**の(1)「アジサイの花のつくり」，大問**4**の(3)「台車が減速する理由」及び大問**6**の(3)「電磁誘導」であった。

無答率が高かったのは，大問**7**の(3)「銅の酸化と質量」，大問**1**の(1)「線香の火がすぐに消えない理由」及び大問**6**の(4)「検流計の針の振れ方」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	4点	線香の火がすぐに消えない理由		○	40.3	/	
		1~3点				2.9		
		無答				19.7		
	(2)	①	二酸化炭素の化学式		○	82.6	2.3	
		②	下方置換法で集めることができる気体の性質		○	71.3	3.5	
(3)		二酸化炭素の性質と二酸化炭素の発生	○		65.0	0.0		
2	(1)		積乱雲		○	83.1	2.0	
	(2)		同じ気圧の地点	○		24.3	0.6	
	(3)	A	台風の経路と気象の変化	○		69.3	0.5	
		B	台風の経路と気象の変化	○		85.6	0.4	
C		台風の経路と気象の変化	○		66.2	0.4		
3	(1)		ミジンコの骨格	○		77.9	0.1	
	(2)		無脊椎動物の特徴	○		59.5	0.3	
	(3)	①	節足動物		○	79.0	5.5	
		②	ムカデ	無脊椎動物の分類	○		38.3	0.2
			アサリ	無脊椎動物の分類	○		72.7	0.3
4	(1)		平均の速さ		○	35.7	11.2	
	(2)	①	力がはたらいている台車の時間と速さの関係を表すグラフ	○		42.5	0.4	
		②	運動している台車の、時間と運動の向きにはたらいている力の大きさの関係を表すグラフ	○		32.4	1.2	
	(3)	4点	台車が減速する理由		○	10.5	/	
		1~3点				3.7		
無答		11.0						
5	(1)		衛星		○	72.9	3.9	
	(2)	①	地球と月の公転方向	○		64.3	0.1	
		②	月食になるときの地球と月の位置	○		72.9	0.2	
	(3)		月食中の月の欠け方	○		27.6	0.1	
	(4)		月食6日後の月のようす	○		30.8	1.2	
6	(1)		磁力線	○		77.0	0.0	
	(2)		コイルに電流を流したときの磁界の向き	○		53.2	0.7	
	(3)		電磁誘導	○		12.3	1.6	
	(4)		検流計の針の振れ方		○	38.7	13.9	
7	(1)		銅の分類と性質	○		75.4	0.3	
	(2)	(a)	銅が酸化するときの化学反応式		○	58.0	11.2	
		(b)	4点	「銅」と「銅と化合した酸素」の質量の関係を表すグラフ		○	34.8	/
			1~3点				13.4	
			無答				10.0	
(3)		銅の酸化と質量		○	17.3	34.2		
8	(1)		アジサイの花のつくり	○		6.8	1.1	
	(2)		葉を脱色する理由		○	57.2	7.0	
	(3)	①	デンプンの移動	○		58.7	1.7	
		②	光合成を調べる方法	○		75.8	1.8	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。



## 5 英 語 (後 期)

### (1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識・技能を、全領域にわたり身に付けているかがみられるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などがみられるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力がみられるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力がみられるようにした。
- エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力がみられるようにした。

### (2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,636

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率の平均 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (絵を見て答える, 対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	1 20点	79.4	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	4 16点	78.8	56.5
	長い文章の読解	5 20点	29.8	
	対話文の流れの理解	6 16点	60.9	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	2 20点	55.5	48.2
	英語による自己表現	3 8点	11.9	

### (3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は60.9点で、前年度と比べて6.4点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと（話すこと）の「リスニングテスト(絵を見て答える, 対話やまとまりのある文章を聞いて答える)」が79.4%と最も高かった。逆に、書くこと（話すこと）の「英語による自己表現」が11.9%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問1のNo.1「文章を聞いて絵を選ぶ」、大問1のNo.3「対話を聞いて英語を選ぶ」及び大問4の(1)①「文脈に合わせて数字(値段)を選ぶ」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問3「英語による自己表現(ある意見に対する賛否とその理由を記述する)」、大問5の(2)「内容と合うよう英文を挿入する場所を選ぶ」及び大問5の(3)「内容と合うよう英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問5の(1)「内容と合うよう英語を補充する」、大問3「英語による自己表現(ある意見に対する賛否とその理由を記述する)」及び大問5の(3)「内容と合うよう英語を補充する」であった。

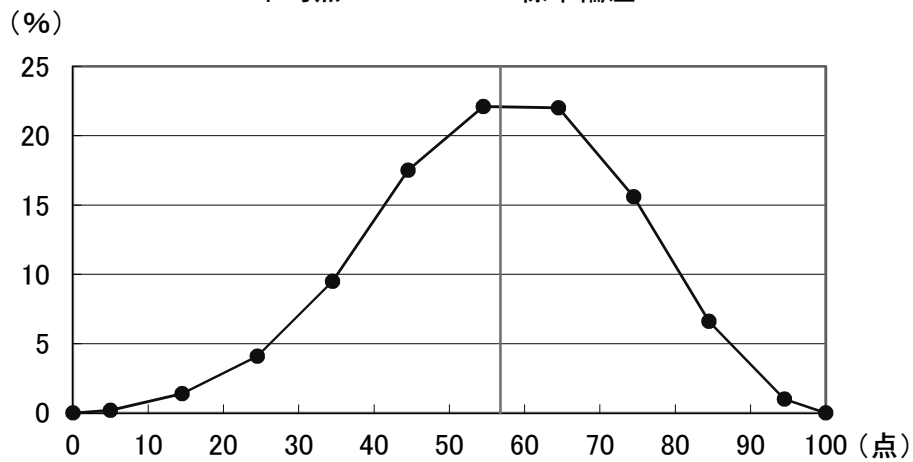
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	No.1	リスニング	文章を聞いて絵を選ぶ		○	91.3	0.1	
	No.2		対話を聞いて絵を選ぶ		○	77.0	0.1	
	No.3		対話を聞いて英語を選ぶ		○	87.9	0.1	
	No.4		文章を聞いて英語を選ぶ		○	77.2	0.1	
	No.5		対話を聞いて英語を選ぶ		○	63.4	0.1	
2	(1)	文法・文構造	名詞 woman を複数形 women にする		○	69.7	3.5	
	(2)		他動詞 write を過去分詞 written にする		○	68.3	1.9	
	(3)		語順整序 ( She left the classroom without saying goodbye. )		○	50.2	0.7	
	(4)		語順整序 ( Would you tell me where to change trains to go to the stadium? )		○	55.9	0.1	
	(5)		語順整序 ( Do you know how long we have known each other? )		○	33.3	0.2	
3	8点	自己表現	英語による自己表現(ある意見に対する賛否とその理由を記述する) (解答例) A (I think so, too.) B ( We can learn a lot about different cultures and also enjoy talking with foreign people. )		○	11.9		
	5~7点					27.3		
	1~4点					22.6		
	無答						12.5	
4	(1)	短文読解	文脈に合わせて数字(値段)を選ぶ		○	85.2	0.3	
			内容と合う英語を選ぶ		○	62.3	0.2	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○	82.9	0.2	
			文脈に合わせて英語を選ぶ		○	84.7	0.2	
5	(1)	長文読解	内容と合うよう英語を補充する		○	32.9		
						3点	3.1	
						1~2点	2.3	
						無答		33.7
	(2)		内容と合うよう英文を挿入する場所を選ぶ		○	22.2	1.2	
	(3)		内容と合うよう英語を補充する		○	22.3	11.6	
	(4)		内容と合う英語を2つ選ぶ		○	8点	41.6	
						4点 ウのみ 正解	29.2	
4点 オのみ 正解		19.6						
無答						1.9		
6	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○	74.8	0.2	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○	45.5	0.4	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○	63.6	0.9	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ		○	59.7	1.2	

## V 【後期選抜】受検者の得点分布

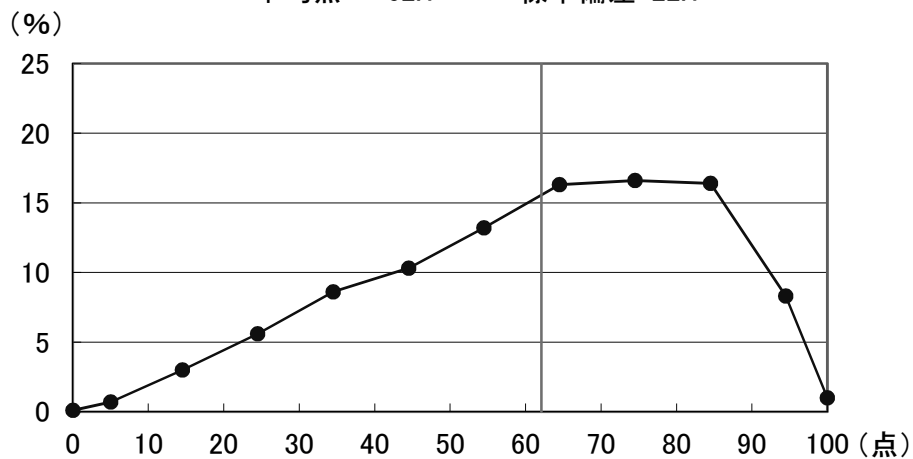
### 1 国語

平均点 56.7      標準偏差 16.4



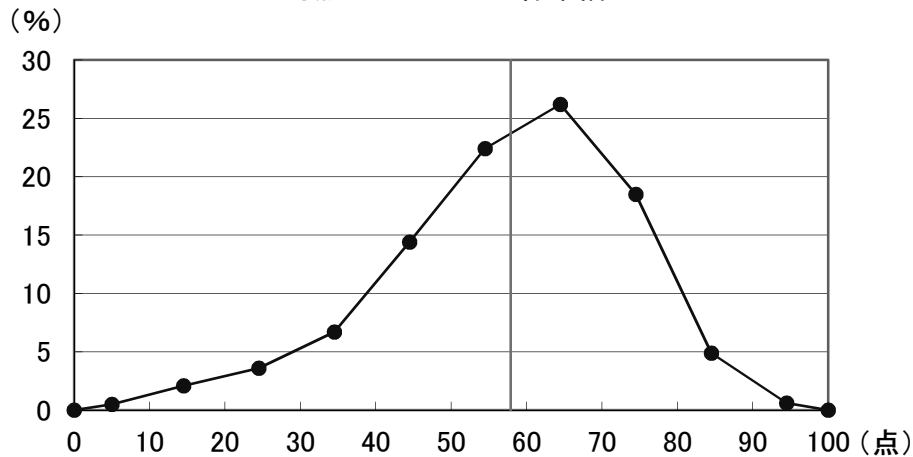
### 2 社会

平均点 62.1      標準偏差 22.1



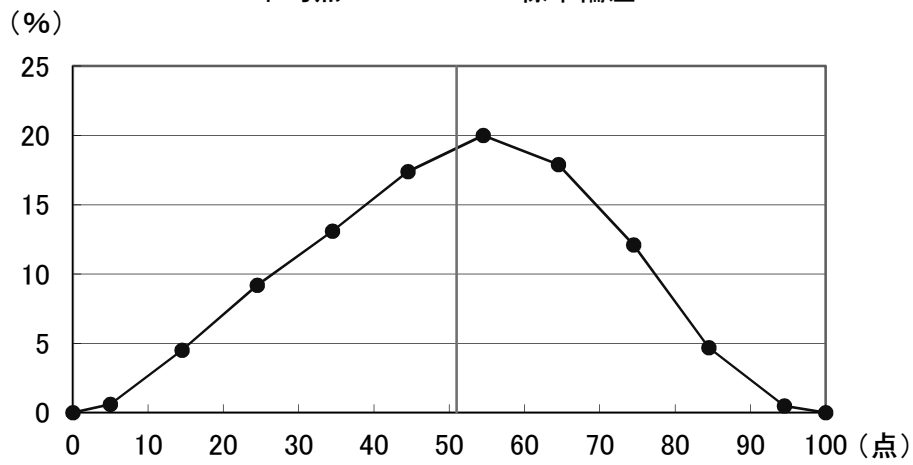
### 3 数学

平均点 57.9      標準偏差 15.1



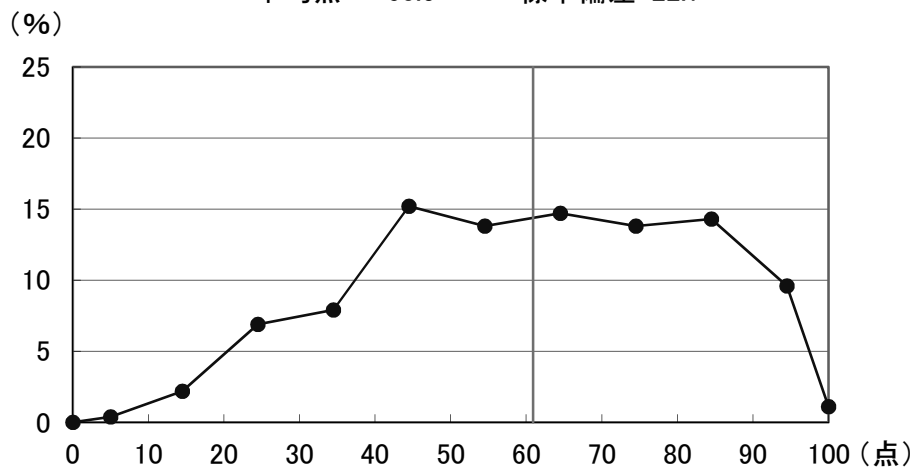
#### 4 理科

平均点 51.0 標準偏差 18.7



#### 5 英語

平均点 60.9 標準偏差 22.7



#### 6 5教科得点合計

平均点 288.7 標準偏差 83.8

